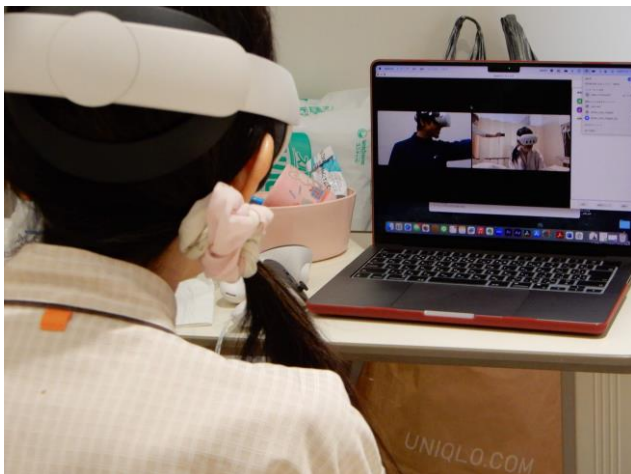


新江ノ島水族館

水族館と異分野の融合で目指す新たな海の学びの創出

2023年5月1日(月) ~ 2024年4月13日(土)



【事業の内容・目的】

1. 体験型 VR イベントのオンライン化をすすめ、病院と協力、長期入院患者など、水族館に訪れることが難し方にも江の島の海の魅力を届ける。
水中ドローン調査体験 VR コンテンツを発展させ、オンライン化、江の島沖大陸斜面域の魅力を発信をテーマに、いつでもどこでも調査体験ができる学び場を創出。あらゆる体験がオンライン化するこれからの時代の水族館コンテンツの在り方を模索する。
2. 「食」という側面からの海の諸問題の普及に取り組むことで、水族館や海に興味のない方にも地元の海の諸問題を考える機会を提供する。
江の島の今について、「食」という側面からアプローチする。発信力のある一流シェフや地元漁協と協働し、地元江の島から食材を調達、大水槽前で食事イベントを開催。アイゴなどの植食性の魚やいわゆる未利用魚を一流シェフが料理することにより、美味しさを提供しつつ磯焼けなど今の海の諸問題を知る新しいタイプの学びの場を創出する。さらにはサステイナブルな食の普及を目指す。

活動の様子

1. 水族館×VR×病院 Virtual えのすい ～だれでもどこでもいっしょに深海探査～

【開催日時】2024年1月22日、3月6日

【開催場所】川越南公民館、埼玉医科大学総合医療センター

【参加者数】8人、1人、1人、1人

【活動内容・目的】

- ・水中ドローンの探査VRプログラムをオンライン化
- ・長期入院を余儀なくされている患者さんや重度障がいをお持ちの子どもたちなど、水族館に足を運ぶことができないような方々に臨場感のある体験的な学習を届ける。



4年間通して取り組んできている江の島沖での水中ドローン調査について、そのアウトリーチの場を水族館のみならず能動的に広げるツールとしてのVRの可能性を広げることができた。リモート化することにより、水族館にいながらにして遠方の方向けに、また病室など一般に入室できない場所とつないだVR上映が可能となった。これは水族館発の海の学びをオンライン化するだけでなく、これまで届き得なかった方に届けることの出来るコンテンツとすることができた。また、リモートに加えて通常の上映も組み合わせることで、同様の学びの場を重度障がい児の支援施設での実施など本事業の継続と更なる発展につなげることができた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

オンラインVRプログラム上映



1回目：2024年1月22日（月）、川越南公民館にてリレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会、かわごえ緩和ケアネットワークが開催した「がんサロン川越」で集まったがん患者の方々を対象にリモートVR上映を実施した。



2-4回目：2024年3月6日、埼玉医科大学総合医療センターにて、儀賀理暁医師の協力を得て、がんの進行した3人の患者様に対して、水族館と病室を繋ぎ、リモートVR上映を行った。2名の意識のはっきりした患者様からは非常に楽しかったとの感想を頂き、1名の意識レベルの低い方は追視の反応が見られた。儀賀医師からは、VR上映は患者様にとって、病には関係なく「普通に」過ごしていた自分を取り戻す、dignity therapy を彷彿とさせる活動であるとのコメントを頂いた。

通常 VR プログラム上映



2024年4月13日、栃木県宇都宮市にある重度障がい児とその家族の支援施設「うりずん」で、VRプログラムの通常上映10回とオオグソクムシ水槽展示、およびタッチイベントを行った。利用者とその家族合わせて86名が参加した。子どもたちとその家族対象ということで、リモートでの実施より、水槽を設置して観察や実際に触ってもらうなど、よりよい実施形態で行った。「オオグソクムシに触れるなんて中々ない機会です、本当に楽しめました、携わってくださった全ての方々に、心から感謝しております、貴重な経験を積ませていただき、本当にありがとうございました」などの感想をいただいた。

【参加者の声】

- 数年ぶりの海、音や見るものすべてがステキです。ぜったい自分ではもぐったり海の上を浮かんだりできないので、貴重な時間でした。
- もともと「水」が好きで、泳ぐことも好きでシュノーケルなどもやりたいと思っていた。初めての体験で楽しめた。
- 江ノ島水族館の近海にあんなに生き物がいるのかと思いました。ゴーグルをつけるだけで臨場感が得られるのがいいですね。病院で行うことで患者さんたちに楽しさ、安らぎを与えられるのが良いことです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 水族館×漁協×一流シェフ Bistro えのすい ～ふじさわサステナブルレストラン～

【開催日時】2023年10月15日（日）18:00～20:30

【開催場所】新江ノ島水族館

【参加者数】54人

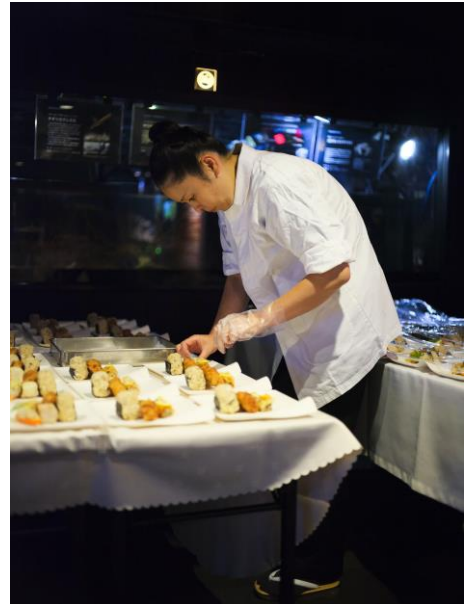
【活動内容・目的】

- ・新江ノ島水族館の相模湾大水槽前で立食パーティー式の食事イベント。
- ・地元片瀬漁協で採れた魚を使用、Chefs for the Blueと協力し、一流のシェフが調理を担当した。
- ・地元の食材を使用し、かつ食としての楽しみを最大限に押し出した「水族館レストラン Bistro えのすい」のオープニングイベントとした。



新江ノ島水族館のクラゲファンタジーホール、相模湾大水槽前を会場としてイベントを行った。地元江の島の食材だけでなく、藤沢市で野菜を育てる井出農園、リッチフィールド株式会社、藤沢産の小麦を使ってパンをつくる長後製パン株式会社に共催いただき、海だけでなく地元全体の食を知って頂くイベントとなった。

開始前はクラゲファンタジーホールでウェルカムドリンクを楽しんでいただき、その後相模湾大水槽前に移動、新江ノ島水族館、Chefs for the Blue、江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクトの各団体の活動を紹介、各シェフに料理の紹介をしていただき、食事へと移った。



シイラの南蛮漬け、シイラの南蛮漬け、アイゴの西京焼き、クロサバフグの唐揚げ、サワラの炊き込みご飯のおにぎり、カマスの胡麻和え、アイゴのラヴィオリ、チーズケーキを料理として提供。

料理を楽しんでいただきながら、シェフ×漁師×飼育員でクロストークを実施、今の海を知る漁師、今の食を知る一流シェフ、今の海洋生物を知る飼育員がタッグを組むことにより、それぞれ単独では発信できない新たな視点での海の学びを提供できた。



「食」と水族館の融合という新たな挑戦が多くの方に受け入れられたことが、今回の想定より広範囲へ波及するイベントとなった要因である。農園や製パン会社の協賛はその表れと言える。地元の海を知ってもらうツールとして、何よりも身近な「食」と関連付けることにより、多くの方に地元の海の学びへ興味関心を持ってもらう結果へとつながった。

【参加者の声】

- 実家の海の近くで、子供の頃の海と今の海の違いを肌で感じています。生活の中で海を汚さない受風をしたいと感じました。
- 今、食べている魚が20年、30年、50年後も食べ続けられるように、自分自身が何ができるのか、改めて考えなければならぬと思いました。
- 環境問題が色々と深刻になる事で、今食べられている美味しい魚が食べられなくなったら悲しいです。できることから小さなことでも保全につながる行動をしたいです。します！！

【事業全体のまとめ】

本事業では、VRプログラムを遠隔化して病院と協働した「Virtual えのすい」と、シェフと漁師との協働による食事イベント「Bistro えのすい」を通じて、水族館と異分野との融合を図り、物理的、精神的に水族館から離れた方々に対して海の学びを提供した。

Virtual えのすいでは、がんを罹患されている方や長期入院を余儀なくされている方、さらに重度障がいをお持ちの子どもたちへ、リモートあるいは通常で、深海調査のVRを上映。水族館発の海の学びをオンライン化すると共に、VRの特性を活かすことにより、これまで水族館が届き得なかった方に届けることの出来るコンテンツとすることができた。

Bistro えのすいでは、地元江ノ島で採れた魚と藤沢の食材を用い、一流シェフが料理を作るイベントを実施。料理、シェフ、飼育員のクロストークイベントやシェフの作るおいしい料理を通して、食という万人共通の魅力を前面に押し出した。その効果として、普段海にあまりなじみのない方にも地域の海と水産物の現状や問題点をよりはっきりと具体的に、一方で楽しく伝えることができた。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 株式会社こよみ、株式会社トライコア	VRプログラムの開発
2. リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会、かわごえ緩和ケアネットワーク、うりずん	VRプログラムの上映協力
3. NPO 法人江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト、一般社団法人 Chefs for the Blue	Bistro えのすいの計画、実施
4. 井出農園、リッチフィールド株式会社、長後製パン株式会社	Bistro えのすいの食材提供
5. 藤沢市	Bistro えのすいの後援

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. テレビ朝日	新江ノ島水族館が“出張” 重い障がい持つ子どもが生き物とふれあい「経験ゼロを1に」、2024/4/13
2. とちぎテレビ	医療的ケア児などが移動水族館を楽しむ 一番盛り上がりを見せたのは深海生物「オオグソクムシ」、2024/4/13
3. 読売新聞	移動水族館を満喫 宇都宮の医療ケア児たち、2024/4/16
4. 下野新聞 (Web)	水族館が重度障害児者ケア施設で「初開館」 埼玉医科大などが協力 宇都宮の「うりずん」
5. 読売新聞	大水槽前で魚の食育新江ノ島水族館_海の環境変化学ぶ「未利用魚」おいしく、2023/12/15
6. 料理王国、Yahoo!Japan	江ノ島で「水族館×漁師×シェフ」！ 海と魚の今をおいしく知る一夜、2023/11/09
7. ELLE [エル デジタル]	日本の海から魚が消えている！ 危機的状況を救うため シェフたちと立ち上がったフードジャーナリスト 佐々木ひろこさん、2024/02/16

以上

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。